

令和3年2月12日

草津市議会議長 西田 剛 様

草津市議会会派 市民派クラブ

会長 奥村 恭弘

草津市議会 市民派クラブの令和2年度政務活動費実施研修（会派研修）の結果について、下記のとおり報告書を提出いたします。

記

1. 期 間 令和3年2月5日（金）

2. 日 程

令和3年2月5日（金）午後2時～午後5時

公益社団法人日本都市計画学会 第44回都市計画セミナー（オンライン）

セミナーナメ「With/Postコロナ時代の都市・社会」

（Zoomウェビナーによるライブ配信セミナー）

3. 参 加 者 杉江 昇

4. 添付資料

別紙のとおり

1ページ

知見を活用した政務活動の復命

市民派クラブ 杉江 昇

日 時 2021年2月5日（金）14：00～17：00

場 所 草津市議会市民派クラブ控え室

参加者 杉江 昇

セミナー名 With/Postコロナ時代の都市・社会

知識習得方法

ZOOMウェビナーによるライブ配信セミナー

題名および知見者（目 次）

① ポストコロナに再照準した都市計画の展開へ

東京大学大学院 新領域創成化学研究科教授 出口 敦

② 都市機能の融合と流動：工作的都市

東北芸術工科大学教授 馬場 正尊

③ With/Postコロナのまちづくりに向けて

国土交通省大臣官房技術審議官 渡邊 浩司

敬称略

④ 草津市民へのフィードバック

はじめに

C O V I D - 1 9 出現により世の中のあり方が大きく変わってきた。

また、医学系の知見や環境学系の知見からは、このコロナ型のウィールスの変容（変異）以外に、さらに進化した細菌や在来の細菌（デング熱やマラリヤなど）の日本上陸の予測などもあり、ますます暮らし方の常識打破などの工夫を早急に知識を積上げる要があり、都市計画の観点から「まちの格好」や「地域の人の動き方」を考察するセミナーに参加することにした。

なお、東京23区における都市計画の考察が中心であったことから、草津市にあっては、「協働のまちづくり推進計画」や「中心市街地活性化計画」「みどりの基本計画」などを考察材料とし、第6次草津市総合計画第2期計画に寄与できるように授業した。

① ポストコロナに再照準した都市計画の展開へ

（現状の認識）

- ・少子高齢化や人口、世帯減少社会が更に拡大する。
（地域共生と多文化共生社会の構築を急ぐこと）
- ・E Uでは、気候変動への警告を越え気候危機を訴える国や機関が出現し、考えが拡大している。
（近未来的に生活・産業・学問など多くの領域でS D G s を意識した活動になる）

（安全）

- ・これから増え変異する可能性の高いC O V I D - 1 9に対する安全方法を編み出すこと。
（環境・医療・人口移動など様々なデータを組み合わせ考察すること…A I）

（まちづくり）

- ・今まで、雰囲気的に「まちづくり組織」を創ってきた。
（安全方法をはじめ総合的なまちづくり組織創りにはデータに基づいた方法によらなければならない）
- ・行政主導のまちづくりを変更してこなかった。
（市民参加と企業主導）
（コミュニティカルテ…N e t活用にて現状把握、課題抽出←情報交換）
（eシンポジウム…議論構造の可視化と決定プロセスの透明性の向上）

② 都市機能の融合と流動：工作的都市

- ・楽しく暮らすまちづくり（昔回帰）
(近代化が推進され、分離主義的都市政策から融合主義へ)
- ・個宅や集合住宅等の空屋活用
(耐震を含めたりノベーション) ←高円寺JR社宅のリノベーション)
- ・南池袋エリア公園都市構想…進行中
(まめくらし研究所・パークマネジメントによる南池袋公園の賑わい)
(南池袋グリーン大通りによる活性)
(住区ごとの寄合い場所と他の住区とのウェブ的連携)

③ With/Post コロナのまちづくりに向けて

- ・ウォーカブル（歩いて暮らせる）なまちづくりく居心地が良く歩きたくなるまちづくり)
ニューノーマルな暮らし方・市民QOLの向上をきめ細かくデジタル化し、記録としてのまちの基盤を構築すること。
- ・都市に活力があることの重要性を再認識し Post コロナを見据えると更に重要性が増す。
- ・新しい生活に適合した場所を最適に創る。←衣食住+テレワーカーの集まる場所=コワーキングスペース、フリースペース、テレチューブ、ロケーション。
- ・CCR（シニアの地方移住）が通常的に必要だが、テレワークやリモートワークが標準化する頃を睨み、機密性の高い有線網が山奥まで必要になるかも知れない。

○各講義の共通項

*都市アセットマネジメント

- ・都市の骨格の隙間に気軽に第3の場所がある（3丁目集会所のようで飲食を伴うことを厭わない）。
- ・また、同じような隣町（丁目）とその場所を繋いでいけるような創作が必要である。

*アセットマネジメントの行動

- ・シニアの地方移住促進（長寿促進・中心となる都市に活力を維持しながら、周辺に都市に活力を流していく。）

* 本来のやり方にてまちを構築していく。

制度をつくる（行政）→見合ったまちをつくる（町衆）

まちをつくる（町衆）→見合った制度をつくる（行政）

行政マンがまちに繰出し町衆と肩を並べて地域の人の暮らしを考える。

* スマート（雰囲気ではなく、データを活用し）ウォーカブル（歩いて暮らせるまち）

スマートウォーカブルタウンの出現。

* 造って終わりのまちづくりから常にリノベーションをしていくまち像。

フィードバック

現在、草津市では健幸都市基本計画がありますが、～住む人も、訪れる人も、健幸にまれるまちを目指して～をビジョンで稼働中です。この基本計画は、部ごとにある基本計画を統合する草津市総合計画に次ぐ大きな計画で大方の基本計画を抱合しています。

草津市版地域再生計画と地域公共交通網形成計画を一体的に進める「コンパクトシティ・プラス・ネットワークを形成計画し、実施進行中です。また、中心市街地を活性し草津市の中心部（草津駅かいわい）を更に活性化し周辺の学区に波及するように考えているところです。…南草津駅かいわいも同様にです。

中心市街地活性化計画では、「歩いて暮らせるまち」を一つの目標としています。W i + h コロナでの暮らし方「ウォーカブル」と同じことです。

また、今までのまちの創り方は、雰囲気によるところが多く、今後は、人の動きや、世代毎が快適に暮らせるようにまちづくりをしていかなければなりません。たとえば、各町にある集会所を誰もが好きなように使える（必ずルール作りは必要）ようしたら住民が最適に使うようになりまちづくりに寄与すると考えます。また、隣町に同じような場所と連携し楽しみを共有していく必要がありそうです。